

# 大吉備津彦命墓の石材とその採石地

奥 田 尚

大吉備津彦命墓の墳丘の石材と墳丘の基底となる平坦面にみられる石を肉眼で観察した。観察地点は比較的に石材が多くみられた前方部中央下段、東側括れ部後円部側の下段、後円部後方東側の下段、後円部後方の中央部下段、後円部北西の下段、後円部墳頂と、墳丘の基底となる平坦面の東側括れ部付近、西側括れ部付近および陵墓治定地南西隅付近である。石材の表面が付着物に覆われ、石種を同定できないものもみられた。観察地点での石材の使用傾向、石種の特徴、石材の採石地について述べる。

## 1 石材の使用傾向

墳丘の6地点、墳丘の基底となる平坦面の3地点に分布する石材を観察した結果について述べる。

**前方部中央下段：**墳丘斜面の石材は、長径が20～30cmで、角礫、表面が滑らかな亜円礫である。石種は泥岩と花崗閃緑岩を主とし、砂岩がごく僅かである。砂岩や泥岩は角礫で、花崗閃緑岩は亜円礫である。泥岩の表面は割石状を呈する。

**東側括れ部後円部側の下段：**墳丘斜面の石材は、長径が20～30cmで、表面が滑らかな角礫や亜円礫である。石種は花崗閃緑岩、泥岩がほぼ等量を示す。泥岩は角礫で、花崗閃緑岩は亜円礫である。

**後円部後方東側の下段：**墳丘斜面の石材は、長径が20～30cmで、表面が滑らかな角礫や亜円礫である。石種は花崗閃緑岩を主とし、砂岩や泥岩が僅かである。砂岩や泥岩は角礫で、花崗閃緑岩は亜円礫である。

**後円部後方の中央部下段：**墳丘斜面の石材は、長径が20～30cmで、表面が滑らかな角礫や亜円礫である。石種は花崗閃緑岩、砂岩を主とし、泥岩が僅かである。砂岩や泥岩は角礫で、花崗閃緑岩は亜円礫である。

**後円部北西の下段：**墳丘斜面の石材は、長径が20～25cmで、表面が滑らかな角礫や亜円礫である。石種は砂岩を主とし、花崗閃緑岩と泥岩がごく僅かである。砂岩や泥岩は角礫で、花崗閃緑岩は亜円礫である。

**後円部墳頂：**墳頂には主として砂岩、僅かに花崗閃緑岩、泥岩の石材がみられる。石材の長径は15～25cmで、粒形が角、亜角である。また、墳頂のほぼ中央部に板状節理が顕著な輝石安山岩の割石が1石みられる。この長径は約15cmである。

**墳丘基底の平坦面東側括れ部付近：**穴観音付近を中心に、玉葱状風化が部分的にみられる花崗閃緑岩の亜円～円礫が分布する。これらの石は長径が0.5～1.5mである。地山の石種を確認していない。

**墳丘基底の平坦面西側括れ部付近：**括れ部から後円部の西方にかけて玉葱状風化を伴う花崗閃緑岩の亜円～円礫が分布する。これらの石は長径が0.5～1mである。地山の石種を確認していない。

**陵墓治定地南西隅付近：**道状の窪み部に玉葱状風化がみられる花崗閃緑岩、割られた花崗閃緑岩が分布する。これらの石は長径が0.3～1.5mである。割られた石には3個の連続した矢穴がみられる。矢穴は穴の形状から江戸時代中期以降のものと推定される。この付近の地山には花崗閃緑岩の細礫、長石や角閃石の粒がみられる。

墳丘の前方部では主として泥岩と花崗閃緑岩、後円部では砂岩と花崗閃緑岩が多く使用されている。墳丘基底の平坦面にみられる花崗閃緑岩は0.3～1.5mの径をなす亜円～円礫で、3か所に集中して分布する。また、墳頂部では吉備地方の前期古墳の竪穴式石槨に使用されている石材と同様の輝石安山岩の板石が1石みられる。

## 2 石種の特徴

観察した石種は花崗閃緑岩、砂岩、泥岩、輝石安山岩である。石種の特徴について述べる。

**花崗閃緑岩：**色は灰色である。石英・長石・黒雲母・角閃石が噛み合っている。石英は無色透明、粒径が

2～3mm、量が僅かである。長石は灰白色、粒径が2～3mm、量が多い。黒雲母は黒色、粒状で、粒径が0.5～1mm、量が中である。角閃石は黒色、短柱状で、粒径が2～6mm、量が僅かである。

砂岩：色は灰色、暗灰色で、構成粒が細粒～中粒、石英や長石の粒がみられる。

泥岩：色は黄土色、灰色、暗灰色である。

輝石安山岩：色は灰色、板状節理が顕著である。斑晶鉱物は長石と輝石である。長石は無色透明、短柱状で、粒径が0.2～0.5mm、量が多い。輝石は黒色透明、粒状・短柱状で、粒径が0.2～0.4mm、量が中である。石基はガラス質である。

### 3 石材の採石地

当陵墓が築造されている丘陵は砂岩やチャートの岩塊を含む泥岩を基質とするメラングジュからなる。砂岩の岩塊は後円部の切り通し北斜面に長径が2mを越す塊でみられる。また、この付近の山地は泥岩基質のメラングジュからなるが、これを貫く小規模の花崗閃緑岩の岩体が部分的に分布する。貫入岩体の規模は数m～数十mあるいは100mを越す場合もある。

前方部にみられる石材の泥岩は角ばって、表面がザラザラしているが、他の観察地点のものは表面が滑らかで、角が微かに円くなった谷川にみられる石のようである。砂岩は表面が滑らかで、角が少し円くなった谷川にみられるような石である。花崗閃緑岩は、粒形が亜角～亜円で、表面が滑らかである。谷川や川原にみられるような石である。石種の岩相は当陵墓付近にみられる砂岩や泥岩、花崗閃緑岩の岩相に似ている。

前方部中央下段に使用されている泥岩は谷川や川原の石というよりも当陵墓の地山を構成している泥岩の割石と推定される。墳丘の下段に使用されている砂岩や花崗閃緑岩は石材の形状と表面の様子から谷川あるいは流出距離が短い河川の礫と推定される。前方部の泥岩を除く他の石材は当陵墓の付近の谷川に同様の礫がみられることから、麓の谷川にある礫を採取したと推定される。

墳丘基底の平坦面の3ヶ所に集中して分布する花崗閃緑岩は表面に玉葱状風化がみられることから、深層風化を受けた時に残っている芯石と推定される。東側括れ部東方の穴観音の石材は産状から人為的に移動していると判断されるが、他の部分では芯石の産状を示している。穴観音付近と西側括れ部付近の平坦面の地山の石種を観察していないが、南西隅の地山には小指大の花崗閃緑岩礫、角閃石や長石の粒がみられ、泥岩や砂岩の細片がみられなく、長径が1mを越す玉葱状風化をした花崗閃緑岩も分布することから花崗閃緑岩の露出地と推定される。地山の石種を観察していないが産状から西側の括れ部付近と東側の括れ部付近には花崗閃緑岩の小規模な岩体が分布している可能性がある。

墳頂部にみられる輝石安山岩と同質の岩石の分布を岡山県内で確認していない。香川県の豊島や小豆島西部に分布する輝石安山岩の岩相の一部に似ている。類似する岩相の石材は浦間茶臼山古墳等の竪穴式石槨の石材にみられ、豊島の御殿山付近が採石地と推定されている。また、墳頂部で観察した石材には赤色顔料（辰砂の粉）が付着している。